

\*\*2014年12月改訂(第4版)  
\*2012年6月改訂

日本標準商品分類番号
871249

貯法: 室温保存(気密容器)  
使用期限: 外箱、容器に表示  
規制区分: 処方箋医薬品  
(注意-医師等の処方箋により使用すること)

**承認番号	22600AMX00583000
**薬価収載	2014年12月
**販売開始	2008年7月

筋緊張改善剤

## \* エペリゾン塩酸塩錠 50mg 「ツルハラ」

Eperisone Hydrochloride

### 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

### \*\*【組成・性状】

#### 組成

エペリゾン塩酸塩錠 50mg 「ツルハラ」は1錠中エペリゾン塩酸塩 50mg および添加物として乳糖水和物、結晶セルロース、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、軽質無水ケイ酸、ヒプロメロース、マクロゴール6000、タルク、酸化チタン、ポリビニルアセタールジエチルアミノアセテート、カルナウバロウを含有する。

#### 製剤の性状

エペリゾン塩酸塩錠 50mg 「ツルハラ」は白色フィルムコート錠で、識別記号はE19である。

			直径: 約 6.6mm 厚さ: 約 3.7mm 質量: 約 100mg
--	--	--	---

### 【効能・効果】

- 下記疾患による筋緊張状態の改善  
頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、腰痛症
- 下記疾患による痙性麻痺  
脳血管障害、痙性脊髄麻痺、頸部脊椎症、術後後遺症(脳・脊髄腫瘍を含む)、外傷後遺症(脊髄損傷、頭部外傷)、筋萎縮性側索硬化症、脳性小児麻痺、脊髄小脳変性症、脊髄血管障害、スモン(SMON)、その他の脳脊髄疾患

### 【用法・用量】

通常成人には1日量として3錠(エペリゾン塩酸塩として150mg)を3回に分けて食後に経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
  - 薬物過敏症の既往歴のある患者
  - 肝障害のある患者〔肝機能を悪化させることがある。〕
- 重要な基本的注意  
本剤投与中に脱力感、ふらつき、眠気等が発現することがあるので、その場合には減量又は休薬すること。なお、本剤投与中の患者には自動車の運転など危険を伴う機械の操作には従事させないように注意すること。
- 相互作用

#### 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
メトカルバモール	類似薬のトルペリゾン塩酸塩で、眼の調節障害があらわれたとの報告がある。	機序不明

### \* (4) 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

#### 1) 重大な副作用(頻度不明)

- ショック、アナフィラキシー様症状: ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、発赤、痒痒感、蕁麻疹、顔面等の浮腫、呼吸困難等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群): 中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群等の重篤な皮膚障害を起こすことがあるので、観察を十分に行い、発熱、紅斑、水疱、痒痒感、眼充血、口内炎等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

#### 2) その他の副作用

	頻度不明
肝臓 <sup>注1)</sup>	AST(GOT)の上昇、ALT(GPT)の上昇、AI-Pの上昇等
腎臓 <sup>注1)</sup>	蛋白尿、BUNの上昇等
血液 <sup>注1)</sup>	貧血
過敏症 <sup>注2)</sup>	発疹、痒痒、多形滲出性紅斑
精神神経系	眠気、不眠、頭痛、四肢のしびれ、体のこわばり、四肢のふるえ
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振、胃部不快感、腹痛、下痢、便秘、口渇、口内炎、腹部膨満感
泌尿器	尿閉、尿失禁、残尿感
全身症状	脱力感、ふらつき、全身倦怠感、筋緊張低下、めまい
その他	ほてり、発汗、浮腫、動悸、しゃっくり

注1): このような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注2): このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

#### (5) 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

#### (6) 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

2) 授乳中の婦人に投与することは避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること。〔動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

#### (7) 小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

## (8) 適用上の注意

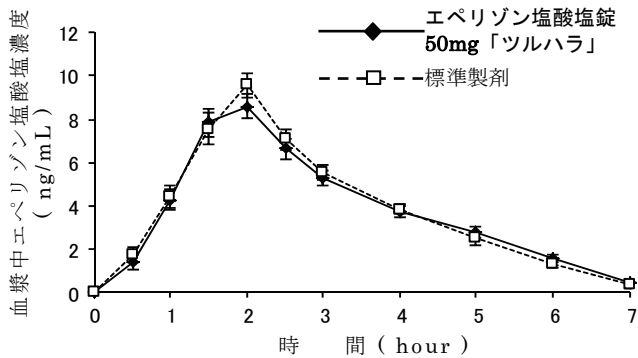
薬剤交付時：PTP包装の薬剤は PTP シートから取り出し服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

### \*\*【薬物動態】

#### (1) 生物学的同等性試験<sup>1)</sup>

エペリゾン塩酸塩錠 50mg「ツルハラ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 3 錠<sup>注3)</sup>(エペリゾン塩酸塩 150mg)を健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8)\sim\log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

(注3)：1回投与量 3錠は承認外用量である。)



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-7</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
エペリゾン塩酸塩錠 50mg「ツルハラ」	26.6±1.6	9.4±0.5	1.8±0.1	1.8±0.2
標準製剤 (錠剤、50mg)	27.2±1.7	10.0±0.7	1.9±0.1	1.4±0.1

(Mean±S.E.、n=12)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

#### (2) 溶出挙動<sup>2)</sup>

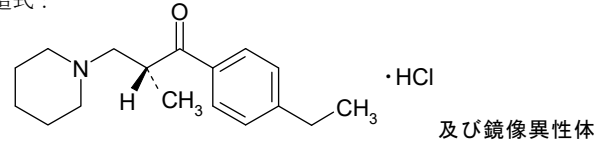
エペリゾン塩酸塩錠 50mg「ツルハラ」は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたエペリゾン塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

### 【薬効薬理】

- ・ラットの Sherrington 型除脳固縮 ( $\gamma$ -固縮) と虚血性除脳固縮 ( $\alpha$ -固縮) の両方を用量依存的に抑制する。
- ・モルモット基底動脈平滑筋において膜電位依存性 Ca チャネルを阻害して血管を拡張することが報告されており<sup>3)</sup>、サルで血流増加作用が認められている<sup>4)</sup>。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

構造式：



一般名：エペリゾン塩酸塩 (Eperisone Hydrochloride)

化学名：(2RS)-1-(4-Ethylphenyl)-2-methyl-3-piperidin-1-ylpropan-1-one monohydrochloride

分子式：C<sub>17</sub>H<sub>25</sub>NO·HCl

分子量：295.85

性状：本品は白色の結晶性の粉末である。

本品は水、メタノール又は酢酸(100)に溶けやすく、エタノール(99.5)にやや溶けやすい。

本品のメタノール溶液 (1→100) は旋光性を示さない。

融点：約 167℃ (分解)

### \*\*【取扱い上の注意】

#### 安定性試験<sup>5)</sup>

最終包装製品を用いた加速試験 (40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月) の結果、エペリゾン塩酸塩錠 50mg「ツルハラ」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

### \*\*【包装】

エペリゾン塩酸塩錠 50mg「ツルハラ」

PTP：100 錠、500 錠

### 【主要文献】

- 1) 鶴原製薬株式会社 社内資料
- 2) 鶴原製薬株式会社 社内資料
- 3) Fujioka, M. et al. : J. Pharmacol. Exp. Ther., 235(3) 757(1985)
- 4) 杉本秀芳他：基礎と臨床, 21(12)4882(1987)
- 5) 鶴原製薬株式会社 社内資料

### 【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

鶴原製薬株式会社 医薬情報部

〒563-0036 大阪府池田市豊島北 1 丁目 1 6 番 1 号

TEL：072-761-1456 (代表) FAX：072-760-5252

販売元



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号



製造販売元

鶴原製薬株式会社

大阪府池田市豊島北 1 丁目 16 番 1 号